

3 - 2 川の物理的な特徴区分

沖積河川は、河床勾配を基に、似たような特徴を持ついくつかの区間に分けることができます。

なぜ、上流、中流、下流で、それぞれ特徴的な景観が思い浮かぶのでしょうか。上流、中流、下流では、河床の傾きが異なります。河床勾配が同一であるならば、河床材料の大きさ、洪水時に河床に働く力（掃流力）、川の幅（低水路幅）、深さも概略同じようになります。このように、河床勾配が同一で似たような特徴を持つ区間ごとに河道を区分することを”セグメント区分”と言います。上流、中流、下流を想像する場合、私たちはイメージを共有できます。これは、私たちが無意識に、セグメント区分毎に川のイメージを捉えているといえるのではないのでしょうか。

セグメント表

項目	セグメントM	セグメント1	セグメント2		セグメント3
			2 - 1	2 - 2	
地形区分					
河床材料の代表粒径 d_R	さまざま	2cm 以上	3 cm ~ 1cm	1 cm ~ 0.3mm	0.3mm 以下
河岸構成物質	河床河岸に岩が出ているところが多い	表層に砂、シルトが乗ることがあるが薄く、河床材料と同一物質が占める	下層は河床材料と同一、細砂、シルト、粘土の混合物		シルト、粘土
勾配の目安	さまざま	1/60 ~ 1/400	1/400 ~ 1/5,000		1/5,000 ~ 水平
蛇行程度	さまざま	曲がりが少ない	蛇行が激しいが、川幅水深比が大きいところでは 8 字蛇行または島の発生		蛇行が大きいものもあるが小さいものもある
河岸侵食程度	非常に激しい	非常に激しい	中、河床材料が大きいほうが水路は良く動く		弱、ほとんど水路の位置は動かない
低水路の平均深さ	さまざま	0.5 ~ 3m	2 ~ 8m		3 ~ 8m
吉野川の対象区間	池田ダムより上流		10km ~ 池田ダム		河口 ~ 10km

川の景観は、上流、中流、下流と変化します。景観の変化は、物理的な特徴の変化として整理することができます。物理的な特徴が変化するため、上流、中流、下流では、生息・生育している生物も変化します。以降では、吉野川において過去に調査した結果を用いて、生物の縦断的な変化の状況を紹介します。